

野菜畑作生産情報 第5号

平成30年8月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



- ◎大豆の生育はほぼ平年並。ほ場の排水対策を徹底しよう。
- ◎ながいも、ねぎ等の根菜類・葉菜類の生育は概ね順調。トマトでは、着果量が少なめ。
- ◎品目やほ場に応じて病害虫防除と排水対策を徹底しましょう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ア 生育は、ほぼ平年並となっている。
- イ 病害虫の発生は少ない。

表-1 大豆の生育状況 (8月10日調査)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年 (平年差・比)	5/28 (遅3日)	6/6 (遅1日)	7/27 (±0日)	99.0 (110%)	65.4 (118%)	13.5 (101%)	3.3 (122%)
	平年	5/25	6/5	7/27	89.6	55.2	13.4	2.7
	前年	5/25	6/4	7/29	88.1	57.8	12.7	2.5
野菜 研究所 (六戸町)	本年 (平年差・比)	5/15 (早1日)	5/26 (±0日)	7/24 (早3日)	115.8 (111%)	72.9 (112%)	14.3 (103%)	1.8 (64%)
	平年	5/16	5/26	7/27	104.0	65.3	13.9	2.8
	前年	5/16	5/23	7/21	106.1	58.4	13.3	2.2
五所川原市 金木町	本年 (平年差・比)	6/8 (遅5日)	6/17 (遅6日)	7/31 (遅1日)	72.3 (86%)	—	—	—
	平年	6/3	6/11	7/30	84.1	—	—	—
	前年	6/15	6/23	8/2	74.2	—	—	—
十和田市 切田	本年 (平年差・比)	6/8 (遅2日)	6/20 (遅6日)	8/1 (早3日)	84.8 (105%)	—	—	—
	平年	6/6	6/14	8/4	80.7	—	—	—
	前年	6/6	6/17	7/31	104.2	—	—	—

(注) 品種は「おおすず」で、農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、五所川原市、十和田市は生育観測ほの調査データ。

平年値は、農林総合研究所が過去13年、野菜研究所が同11年、五所川原市が同16年、十和田市が同17年の平均値。

(2) 今後の留意点

- ア ウコンノメイガ、ツメクサガ等の食葉性害虫の早期発見・早期防除に努める。
- イ マメシクイガの防除を次により徹底する。

表-2 マメシクイガ防除の薬剤の種類と散布時期

薬剤の種類	散布時期
○ 合成ピレスロイド剤 パーマチオン水和剤、トレボン乳剤、トレボンMC、 アディオ乳剤、アグロスリン乳剤、 トレボン粉剤DL ○ ベンゼンジカルボキサミド剤 プレバソンフロアブル5	【一般のほ場】 8月第6半旬～9月第1半旬に1回散布 【多発しているほ場】 一般ほ場より早めの8月第5半旬に1回 目、その7日後に2回目を散布
○ 有機リン剤 エルサン乳剤、サイアノックス乳剤、スミチオン乳 剤、ダーズバン乳剤40、スミトップM粉剤、スミチオ ンベルコート粉剤DL、エルサン粉剤2、ダイアジ ン粒剤5	9月第1半旬に1回目、その7日後に2 回目を散布

注) 登録内容は2018年8月16日現在

- ウ 紫斑病は、開花期後20～40日の間に防除する。なお、チオファネートメチル剤とベノミル剤に対する耐性菌が発生しているため、薬剤の選択には注意する。
- エ 8月下旬～9月初めに殺虫・殺菌混合剤を使用すると紫斑病とマメシクイガを同時防除できる。
- オ 台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

2 小麦(は種の準備)

- (1) は種が早いと生育が進み過ぎて雪腐病の発生を助長し、遅いと越冬前の生育量が不足するので、は種適期である9月15日～25日に確実に種ができるようほ場を準備する。
- (2) ほ場の団地化を図り、明きよや弾丸暗きよなどで十分な排水対策を行う。
- (3) 土壌分析を行い、酸度矯正が必要な場合は、苦土石灰等により土壌改良を行う。
- (4) 紅色雪腐病の保菌種子の持ち込みによる被害を防止するため、薬剤による種子消毒を行う。

野 菜

1 ながいも

(1) 生育状況

- ア 地上部は、つる長が平年並、茎葉重が平年を下回っている。
- イ 地下部は、5月上中旬植えでは平年を上回っており、5月下旬植えでは平年よりやや下回っているものの、おおむね順調である。
- ウ 葉渋病、ナガイモコガの発生が見られる。

表-3 ながいもの生育状況 (8月10日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野 菜 研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25 (1日早)	6/28 (1日早)	370.2 (102%)	236.4 (90%)	7/19 —	28.7 (90%)	84.2 (79%)	32.8 (98%)
	平年	5/26	6/29	364.5	263.9	—	32.0	107.1	33.4
	前年	5/25	6/29	394.1	410.9	7/18	30.8	81.5	30.9
五戸町 上市川	本年 (平年比)	5/12 (1日早)	6/11 (5日早)	— (—)	— (—)	7/ 3 (5日早)	49.7 (111%)	338.3 (196%)	44.9 (128%)
	平年	5/13	6/16	—	—	7/ 8	44.9	173.0	35.0
	本年	5/ 8	6/ 8	—	—	7/12	49.7	239.0	37.5
東北町 野田頭	本年 (平年比)	5/ 6 (10日早)	6/ 3 (7日早)	— (—)	— (—)	7/10 (1日早)	43.0 (119%)	187.7 (142%)	37.8 (117%)
	平年	5/16	6/10	—	—	7/11	36.1	132.3	32.2
	前年	5/16	6/12	—	—	7/10	41.8	182.0	35.7

- 注) ①平年：野菜研は平成19～29年の11か年の平均値。
五戸町は平成14～29年の16か年の平均値。
東北町は平成19～29年の11か年の平均値。ただし萌芽揃期の平年値なし。
- ②種子：野菜研は園試系6の2年子(90～110g)頂芽切除。
五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除。
東北町は庄司系の1年子(50～80g)頂芽付。
- ③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。
五戸町は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。
東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)。
- ④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

(2) 今後の留意点

- ア 8月20日以降の追肥は、茎葉の過繁茂や平いもの発生を助長するおそれがあるため行わない。
- イ 葉渋病、炭疽病の防除を徹底するとともに、ナガイモコガ、アブラムシ類などの害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ウ 採種ほ場では、ウイルス病の伝搬を防ぐためにアブラムシ類の防除を徹底する。
- エ 台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- オ 植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

2 にんにく

(1) ほ場の準備

- ア イモグサレセンチュウなどの病害虫が発生していないほ場を選ぶ。
- イ 堆きゅう肥や土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用し、必要量以上に投入しない。
- ウ 緑肥は、少なくとも植付けの30日前にすき込み、石灰窒素を10a当たり40kg施用し、ロータリー耕を3回程度行う。
- エ 転作田など排水の悪いほ場では、過湿による病害の多発や生育不良を防ぐため、明きよの設置やサブソイラによる弾丸暗きよなどの排水対策を実施するほか、高うね栽培とする。

(2) 種子の準備

- ア イモグサレセンチュウが発生したほ場のりん球は、種球として使用しない。
- イ ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調製はできるだけ植付け直前に行う。
- ウ チューリップサビダニ、イモグサレセンチュウ、黒腐菌核病を対象とした種子消毒を徹底する。

3 夏だいこん

(1) 生育状況

- ア 生育は、出芽が良好で、順調である。
- イ 病害虫の発生はほとんど見られない。

表-4 夏だいこんの生育状況（8月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)
平 川 市 善光寺平	本年	7/ 2	27.1	15.3	121
	(平年比)	—	—	—	—
	平年	—	—	—	—
	前年	6/30	33.8	18.8	373

注) ①前年から作期を変更したため平年値無し（7月中旬は種→6月下旬は種へ変更）
②品種：盛夏土心（前年も同じ）。

(2) 今後の留意点

- ア 生育状況を確認しながら適期に収穫する。
- イ 軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。

4 秋にんじん

(1) 生育状況

- ア 生育は、地上部、地下部とも平年を上回り順調である。
イ 病害虫の発生は見られない。

表-5 秋にんじんの生育状況（8月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 径 (mm)	根 重 (g)
平 川 市 大木平	本年 (平比)	6/21 (1日遅)	26.6 (113%)	8.1 (135%)	14.3 (129%)	10.9 (158%)
	平年	6/20	23.6	6.0	11.1	6.9
	前年	6/19	35.3	7.2	20.6	23.4

- 注) ①平年：平成9年～29年の21か年の平均値。
②品種：向陽2号（前年も同じ）。

(2) 今後の留意点

黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 生育は、地上部、地下部とも平年をやや下回っている。
イ 黒斑細菌病やアブラムシ類が散見される。

表-6 ごぼうの生育状況（8月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 三 沢	本年 (平比)	5/ 4 (7日遅)	113.0 (93%)	2.8 (93%)
	平年	4/27	121.8	3.0
	前年	5/12	123.9	3.1

- 注) ①平年：平成20～29年の10か年の平均値。
②品種：柳川理想。

(2) 今後の留意点

黒斑細菌病、黒条病、アブラムシ類等の発生に注意し、防除を徹底する。

6 夏秋トマト

(1) 生育状況

- ア 4月下旬定植（五所川原市）では7段果房、5月中旬定植（三戸町）では4段果房の収穫期で、落花や灰色かび病の影響により着果数は平年より少なめとなっている。
- イ 灰色かび病、アザミウマ類、タバコガ類の発生が見られる。

表-7 トマトの生育状況（8月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	5段花房		7段花房		9段花房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 藻川	本年 (平年比)	4/29 (6日早)	6/13 (7日早)	3.3 (122%)	6/28 (15日早)	2.5 (89%)	7/18 (13日早)	3.0 (103%)
	平年	5/5	6/20	2.7	7/13	2.8	7/31	2.9
	前年	5/4	6/16	1.8	7/3	2.8	7/18	2.9
三戸町 斗内	本年 (平年比)	5/11 (5日早)	7/4 (1日早)	1.6 (57%)	7/24 (2日遅)	2.5 (119%)	8/12 (1日遅)	(-)
	平年	5/16	7/5	2.8	7/22	2.1	8/11	2.0
	前年	5/11	7/2	2.6	7/17	2.0	8/8	1.8

注) ①設置場所：五所川原市は、本年から藻川に変更（前年まで金木）。

②平年：五所川原市は参考値（五所川原市金木の平成16～28年までの13か年の平均）。

平年値は、5段花房の上で心止めし、直下の側枝に更新した作型の値。

三戸町は平成20年～29年の10か年の平均値。

③品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：Bバリア）（前年に同じ）。

三戸町はりんか409（自根）（前年に同じ）。

(2) 今後の留意点

ア 温度管理等

(ア) 肩換気などにより適正な温度管理を徹底する。また、適切なかん水、肥培管理により草勢の維持に努める。

(イ) 9月以降は裂果の発生が多くなるので、土壌水分が極端に変化しないように管理する。

イ 摘心

雨よけ栽培では、例年9月5日頃までに開花した花房が収穫できるので、開花直前の花房の上にある葉を2枚を残して摘心する。

ウ 病虫害防除

灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類の防除を徹底するとともに、タバコガ類、コナジラミ類の早期発見・早期防除に努める。

7 ね ぎ

(1) 生育状況

ア 生育は、草丈、茎径とも平年を上回っており、順調である。

イ 病害は、軟腐病や斑点性病害の発生が見られ、虫害は、ハモグリバエやアザミウマ類が散見される。

表－8 ねぎの生育状況（8月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)
十和田市 深沢平	本年 (<small>平年比</small>)	2/24 (7日遅)	4/23 (7日早)	96.5 (104%)	25.3 (126%)
	平年	2/17	4/30	92.7	20.1
	前年	1/25	4/25	90.6	20.1

注) ①平年：平成17～29年の13か年の平均値。

②品種：夏扇パワー

(2) 今後の留意点

ア 管 理

(ア) 追肥・培土は、生育の進み具合に合わせて適期に行う。なお、培土は、葉の分岐部の下までを目安に行う。

(イ) 軟腐病を回避するため、培土は天気の良い日の地温が低い早朝に行う。

(ウ) 最終培土は、収穫の30日前頃に行い、葉の分岐部まで丁寧に土を寄せ、軟白長30cm以上を確保する。

(エ) ほ場の停滞水は生育不良の原因となるため、排水対策を徹底する。

イ 病虫害防除

べと病、軟腐病、さび病、黒斑病、アザミウマ類など病虫害の防除を徹底する。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬の使用に当たって、
農薬は適正に使用しましょう。
農薬の飛散を防止しましょう。
農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。
クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等(厚さ0.03mm以上または難透過性の資材)で被覆してください。
農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
農薬登録情報提供システム
【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)
【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにする！
- 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！

◎農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

- 1 農業共済
「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。
- 2 農業経営収入保険
平成31年から新たに始まる「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。
加入には、青色申告が条件となっており、平成31年分の申請は、30年10月から11月となっています。
※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5077
直通	017-734-9485
